

GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES

群馬大学 大学院 保健学研究科

2025



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

Contents

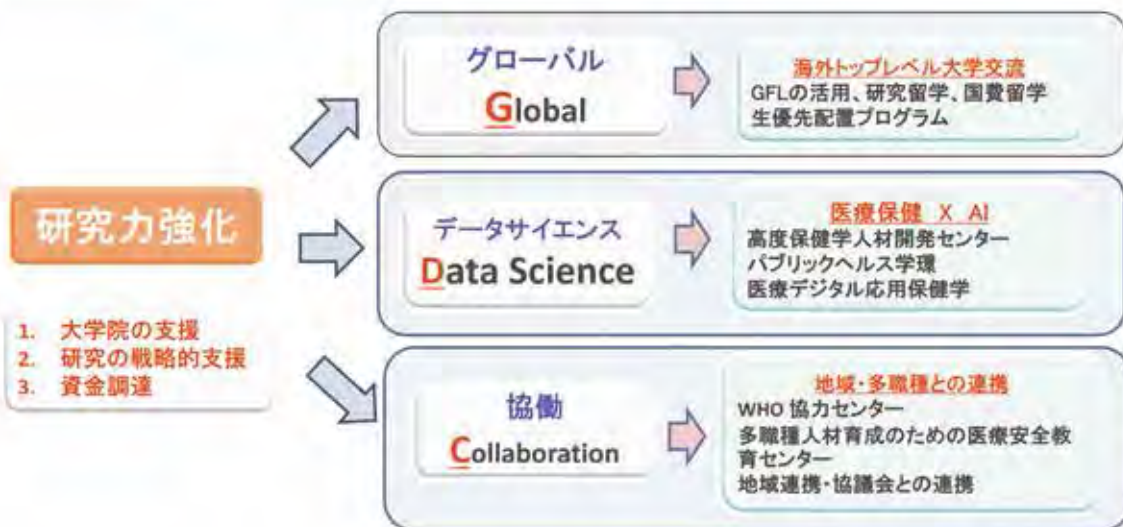
大学院生からのメッセージ	4
修了生からのメッセージ	8
博士前期課程の特徴	10
博士前期課程各ユニットの特色	11
専門看護師（CNS）プログラム	12
専門職養成プログラム	14
博士後期課程の特徴	16
博士後期課程各領域の特色	18
過去3年間の修了生就職先リスト	19
様々な保健学研究科の様子	20
所属教員と研究テーマ	22
看護学領域	22
生体情報検査科学領域	25
リハビリテーション学領域（理学療法学）	26
リハビリテーション学領域（作業療法学）	27
出願から修了までのプロセス	29
修学支援・教育支援・修了後の進路	30
入試日程・募集人員	31
アクセス・問合せ	32



群馬大学 保健学研究科の研究力強化

ビジョン: 世界トップレベルの医学保健学研究教育機関を目指す。

保健医療の諸課題に**地域社会**や**多職種**と連携し解決する
国際的視野をもつ**高度保健学人材・研究者リーダー**





保健学研究科長
齋藤 貴之

保健学研究科長挨拶

Gunma University aims to be a world-class Health Science University.

私たちの保健学研究科は、日本有数の大規模な保健学の大学院です。世界トップレベルの保健学の研究・教育機関を目指し、保健学を通じて社会を変革していきます。保健学は疾患予防や健康増進について情報や手段を提供し、社会全体の健康に貢献することができます。さらに、保健学は、社会的・文化的・経済的な要因が健康に与える影響を研究し、より公正で健康的な社会を実現することができます。

現代は、AIをはじめとする社会の進化や変化が急速に進んでいます。このような変化に対応するためには、学び続けることが不可欠です。学びは、個人や社会の成長や進歩、そして個人の幸福に欠かせない要素です。大学院で、一生役に立つ生きる学び、知の技法を習得し、自己実現に向けて道を切り拓いてください。**私たちは高い倫理観と豊かな学識に基づき、実践力を備えた高度専門職業人リーダーや創造的能力を備えた研究者リーダーを育成します。**看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学の各領域において研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな保健医療技術の開発や保健医療水準の向上を通して、社会の発展に貢献するリーダーを育成します。博士前期課程では研究対象課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学ユニット」、「地域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプローチの研究・教育体制を構築しています。博士後期課程では、専門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」に分けたカリキュラムを組み立てています。

保健学研究科の重点戦略は、各領域の専門の研究を基礎にした3つの柱です。**国際化（Global）、データサイエンス（Data Science）、地域病院連携・多職種連携（Collaboration）**です（P. 2の図）。専門の研究に加えて、他の大学院にはない強みを活かし、自分自身の能力を開花させるための環境を**検討・計画して皆様**に提供します。高度保健学人材開発センターの経済支援、パブリックヘルス学環による社会実装、海外留学、企業と連携したデータサイエンス教育、WHO研修も用意しています。是非、挑戦してください。

私自身も国内の研究所や海外留学で研究に触れる機会を得ることができました。今でも、それはかけがえのない財産です。大学院の中で一流の研究に触れ、国際的に活躍できる研究者や医療実践者を目指してください。**私たちが提供する環境で、皆さん自身の能力を開花させ、世界を変えるリーダーになってください。私たちはあなたの成功を全力で支援します。**

大学院生からのメッセージ

看護学領域

博士前期課程 グローバルな視点を持ち、異文化看護の理解に貢献したいです



渡辺 瑠舞那さん

指導教員：辻村 弘美

大学院進学の動機

病棟で働いていた際に、外国人の患者さんへの対応について不十分だと感じることが度々ありました。看護師は、患者さんの病気だけでなく文化や宗教観など様々な背景を考慮しケアを行うことが求められます。このことから、看護師には国際的な視点が重要であると感じたため、研究という形を通して少しでも看護業界の異文化理解に貢献したいと思い大学院へ入学しました。

将来の目標

将来的には教育関係で働きたいと考えています。学生が広い視野で対象者をアセスメントし、より良いケアへ繋げていけるようにサポートしたいと思っています。言葉の壁や文化の違いにより、外国人の対象者と関わることに苦手意識をもつ看護師の意識が少しでも変わるよう、研究など学術的な活動も続けていきたいと思っています。

大学院進学後のライフスタイル

現在は施設の看護師として週3日ほど勤務し、夜間や休日に講義や研究活動を行っています。

フルタイムではないですが、論文を読んだりゼミの準備をしていると時間があっという間に過ぎてしまいます。やらなくてははいけないことの優先順位を考え、スケジュール帳などを活用し時間配分を考えながら学習・研究活動に取り組むようにしています。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
施設での勤務								授業・研究活動				

博士後期課程

博士課程で学びを深め、多くの実践者に役立つ研究に取り組み、社会に貢献できる研究者になりたいと考えています

私は、2013年に修士課程を修了し、2020年から博士課程で学んでいます。博士課程に進学した理由は、修士課程やその後の仕事の中で、多くの研究に触れ、それら研究の成果物を実践に活用した経験から、研究は実践のためであると実感したことがきっかけです。徐々に自身も多くの実践者に役立つ研究に取り組み、広く社会へ貢献したいという思いが高まり、博士課程への進学を決心しました。

子育てと仕事をしながらの研究は大変なこともありますが、オンラインでの研究ゼミ等で両立がしやすい環境をサポートしていただいています。研究ゼミは、仕事後に19時から21時頃までですが、自身の疑問に対して、先生方から気づきを得られる問いをいただき、共に思考を巡らせながら解を見つけていく過程は、研究を進める上で大変貴重かつ充実した時間だと感じています。



帆苅 なおみさん

指導教員：佐藤 由美

生体情報検査科学領域

博士前期課程 学部生の時よりも大変ですが充実した日々を送っています



亀田 萌恵 さん
指導教員：齊尾 征直

大学院進学の動機

学部時は細胞検査士養成コースに在籍していたため、周りの同級生のような卒業研究を行っていませんでした。どのように計画・実施し、成果として報告するのか研究の方法を学び身につけたいと考え、進学を決めました。また、大学院生として学会に参加して発表したり意見交換したりする機会があることも魅力的に感じました。

大学院進学後の生活

講義が夕方からあるので日中はTAや自分の研究をしています。TAで学部生にわかりやすく教えたり、研究分野に関係する論文を探して読んだりしています。研究に関係のある学会や勉強会に参加することも増え、学会参加者との意見交換や発表する機会もあります。

将来の目標

細胞検査士の資格を活かし、特に病院の病理部で臨床検査技師として働きたいと考えています。大学院生になってから英語論文を読む機会が増えました。「一生勉強」の医療の世界で常に新しい情報を得るために、社会人として働き始めても継続していきたいです。また、国内だけでなく海外の勉強会や学会にも積極的に参加することが目標です。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
研究			休憩	研究・講義						帰宅		

博士後期課程

研究の成果を世の中に発表し、貢献したいです

私は、新規蛍光色素の開発研究および新しい検査技術の創製研究を行っています。生体内の分子の可視化を目的として、博士前期課程から継続してこのテーマに取り組んできました。未知の事柄について研究するため、わずかな反応条件の変化で結果が大きく変わり、特性を調べても予測できないデータを得ることが多いです。このような複雑な事象に興味を惹かれ、さらなる探究を目指し、博士後期課程に進学しました。実験がうまくいかないこともありますが、柴田先生からご指導いただき、解決策を模索しながら研究を進めています。新しい発見に関心があるので、将来は大学院での経験を生かし、研究関連の仕事に就きたいと考えています。



相澤 よしの さん
指導教員：柴田 孝之

リハビリテーション学領域（理学療法学）

博士前期課程 大学院に通うことで視野が広がり、自分の強みも見つかると思います



井上 滝音 さん
指導教員：山上 徹也

大学院進学 の 動機

理学療法士として社会で働いていくうえで、研究という分野を自分の強みにしたいと思ったからです。エビデンスに基づく治療を実践するうえで、研究の知識は必須だと思っています。実際、1年間修士に通ったことで、文献の検索方法や論文を読み解く力が身に着いたと感じています。

大学院進学後の生活

修士1年の前期は、新卒で働きながら、夜は学校で授業を受けるというスタイルなので大変でした。ただ、私の病院は院進学に協力的で、「研究日」という公休が取得できたので、休日もしっかりと確保しながら生活ができていました。後期は授業が極端に少なくなるので、比較的時間に余裕をもって研究や臨床の業務を行うことができました。

将来の目標

まずは、臨床でエビデンスに基づいた治療を行い、理学療法士としてしっかりと力をつけたいです。そして、将来的には、臨床や研究で学んだことを活かして、研究職や地域・企業などの新たなフィールドでの働き方も経験したいと思っています。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院で臨床業務									授業・研究作業		帰宅	

博士後期課程

今後も心臓リハビリテーションの研究を 継続していきたいです

私は博士前期課程を卒業した後もその知識や経験を活かして研究活動を継続したいと考えたためそのまま後期課程へ入学しました。研究内容は普段臨床で携わることの多い心不全に関する研究を行っています。以前から興味のある分野で研究活動や論文執筆を行うことができ、非常に楽しく取組むことが出来ております。臨床と研究活動の両立は大変な面もありますが、臨床での疑問を研究活動に活かすことができる理想的な形だと思います。今後も臨床での疑問を明らかにし、少しでも自分も患者様も納得できるリハビリテーションを提供できればと考えております。



谷 友太 さん
指導教員：臼田 滋

リハビリテーション学領域（作業療法学）

博士前期課程 社会に貢献できるよう、日々学び続けていきたいです



渡邊 佳代子 さん

指導教員：三井 真一

大学院進学の動機

私は大学在学中より生物学的研究に興味を持っていました。当時は進学を諦めてしまいましたが、転職・結婚を機にこれまでを振り返った時やっぱり挑戦したいと思いました。これまでどおり仕事や家事をこなせるのか、子供ができたときはどうするのかとすごく悩みましたが、家族や先生方に背中を押していただき、進学する決心がつきました。

大学院進学後の生活

日中は臨床で働き、夜間や休日に受講・研究活動を行っています。職場の方々や家族の協力もあり、仕事と大学院生活を両立することができています。もちろん、家でお昼寝をしながら好きなテレビを見て過ごす時間は減りますが、今も私自身がやりたいことをできているので、とても楽しく、充実した毎日を送ることができています。

将来の目標

臨床を続けるか研究の道に進むか、迷っているのが正直なところですが、どちらもやりがいのある、人の役に立つ大切な仕事です。どちらに進んでもここでの経験は活きると思いますし、今後の選択肢が増えることは良いことだと思っています。なので、今は日々の臨床業務はもちろん、ずっとやりたかった研究活動も一生懸命取り組んでいきたいです。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院での勤務			休憩	病院での勤務					講義・研究		帰宅	

博士後期課程

グローバル社会で活躍できる人材を育成する 教員になりたいです

私は、伝統ある歴史と経験豊富な諸先輩の多い日本で作業療法を学びたくて留学を決めました。今はその学びを糧にしながら博士研究に取り組んでいます。最近ではたくさんの論文に触れ、多くの人と議論しているうちに、自分がより多角的な視点で物事を捉えるようになったことに気づいています。学位取得後は、ベトナムに戻り、作業療法発展に貢献したいです。大切にしている言葉は「平凡な先生は話す。良い先生は説明する。優れた先生はやって見せる。偉大な先生は心に火をつける。」です。これから作業療法を学ぶベトナムの学生の心に作業療法を愛する火をつけ、日本とベトナムの架け橋になりたいと思っています。



Vo Quoc Duy さん

指導教員：Bumsuk Lee

修了生からのメッセージ

看護学領域



寺島 俊太 さん

群馬大学医学部附属病院
救命救急センター 副看護師長
2023年博士前期課程修了
指導教員：恩幣 宏美

大学院での生活や研究テーマについて

講義やゼミを通じ、暗黙知を活かした看護の専門性について洞察を深めることができました。また、多数の論文に触れることで、研究への理解を深める貴重な経験を積みました。研究は、ドクターカーナースが病院前の現場で多職種と連携し、どのような看護を実践しているかを探究しました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

救命救急センターでの副看護師長として、大学院での看護管理学の学びは組織管理の知識を活用し、人材育成やリーダーシップスキルを発揮する際、非常に役立っています。また、研究での学びは俯瞰的な視点を養うことにつながり、現在は医療チーム全体の調和を促し、専門性の高い看護組織の構築を目指しています。さらに、ドクターカーナースやDMAT隊員として地域医療や災害医療に携わる際、救命とともに全人的かつ俯瞰的な視点で患者やその家族を捉え、支える実践ができています。常に変化する医療環境において、大学院で培った経験を生かし、医療の質向上や最適な患者ケアの提供に貢献し、同時に現場スタッフの研究と看護実践に対する指導を通じて看護の持つ力の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。

生体情報検査科学領域



丹羽 尊彦 さん

群馬大学医学部附属病院 検査部
2023年博士前期課程修了
指導教員：松本 竹久

大学院での生活や研究テーマについて

特殊な発育性を示す *Proteus mirabilis*（腸内細菌の一種）の菌株について、その原因遺伝子の解明を目的とした研究を行っていました。群馬大学医学部附属病院で働きながら大学院に通っていたため、業務後や休日に講義の受講や研究を行っていました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

平日の日中は基本的に業務があり、研究に使うことのできる時間が他の大学院生よりも少なかったため、計画的に研究を実施することが重要でした。大学院で養った計画性は職場でのあらゆる場面で役立っています。また、大学院で研究の基礎を学んだことで、日々の業務で気になることがあった際に、何に着目し、どのように調べることで求めている結果が得られるのかを考えるスキルが身につく、職場で研究を行う際にも大学院での経験が活かされています。特に大学病院は研究機関としての役割も担う必要があるため、文献の調べ方や研究方法、学会発表のスキルなどは役立つ場面が多いです。このようなスキルは日常業務をこなしていくだけでは身につかないため、大学院で指導していただいたお陰であると感じています。

リハビリテーション学領域（理学療法学）



和田 直也 さん

上武呼吸器科内科病院 理学療法士
2021年博士前期課程修了
指導教員：坂本 雅昭
2024年博士後期課程修了
指導教員：田鹿 毅

大学院での生活や研究テーマについて

病院勤務をしながら、地域のサッカーチームにてトレーナー活動を行い、成長期スポーツ障害と運動協調性についての研究を行いました。大学院では、学部生の授業参加、留学生との共同研究、短期留学等も経験できました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院で培われた専門的な知識、研究能力、教育能力は、臨床業務においても多くの場面で十分に活かせると思います。また、問題解決能力が身についたことが大きなメリットだと感じています。

大学院での多くの経験を通して、現状の課題整理とその解決策を考えるのが、論理的かつ簡潔にできるようになったと感じています。仕事の中でも様々な問題が生じたとき、客観的事実なのか、意見や感情なのか、明確になり、全体を俯瞰して見られるようになったと思います。今までは、何をしたらよいか分からず困ってしまうことも多かったですが、現在は今置かれている状況を整理し、解決するための行動がスムーズに行えるようになったことが大きいと感じています。

リハビリテーション学領域（作業療法学）



筒井 信貴 さん

医療法人相生会 わかば病院
作業療法士
2020年博士前期課程修了
指導教員：菊地 千一郎

大学院での生活や研究テーマについて

「脳の機能に関する研究って面白そうだなー」というごく単純な興味・関心から大学院へ進み、「NIRSという測定機器を用いた脳活動の馴化」について学びました。仕事との両立はとても大変で、目の前の課題をただやることで手一杯でした。しかしこういった道に進んだからこそ経験できない学びも同時に得られました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院へ進んだ中での一番の学びは、論理的で分かりやすい説明が大切だということです。普通のことを言っているように聞こえるかもしれませんが、職場ではこれが非常に大切だと感じています。例えば私の職場では外部の病院や施設に患者様の情報を伝えるためにサマリーという書類を作成するのですが、そこには患者様の価値観や疾患に関するリスク、今後の方向性などを事細かに記載します。そこに書かれた文章による説明が分かりづらいと相手に間違った解釈で伝わってしまい、それが患者様への不利益に繋がる可能性もあります。他にも業務上での報連相や、患者様やそのご家族様へのリハビリの進捗状況を説明する際など、論理的で分かりやすい説明を求められる場面は多々あります。大学院を通してその能力を高められたことは、仕事の質の向上に繋がっていると感じています。

博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。

その他に、がん看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際保健学 ユニット	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する人
- 2 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する人
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程の学修に必要な学士レベルの知識・技能を有している人
- 2 研究活動に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 4 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の研究者、教育者又は高度専門職業人を志す人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得する教育
- 2 専門分野の教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限在籍し、かつ、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士前期課程論文（修士論文）を作成した者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士前期課程各ユニットの特色

基礎保健学ユニット

(基礎看護学分野／基礎生体情報検査科学分野／基礎リハビリテーション学分野)

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行う。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行う。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものである。

応用保健学ユニット

(応用看護学分野／応用生体情報検査科学分野／応用リハビリテーション学分野)

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行う。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれる。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性疾患看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行う。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものである。

地域・国際保健学ユニット

(地域・国際看護学分野／地域・国際生体情報検査科学分野／地域・国際リハビリテーション学分野)

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導する。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行う。さらにチーム医療教育機関のネットワークJapan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的多職種連携医療教育を推進する。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものである。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を実践する高度専門医療人である専門看護師（老人看護）の教育・養成を行う。

専門看護師 (CNS) プログラム

—— CNSとは？

専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

—— CNSになるためには？

看護師免許を有し、通算5年以上の実務経験（うち3年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

—— 群馬大学でもCNSの勉強ができるの？

本学は群馬県で唯一CNSコースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・母性看護の3つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）を実施しています。CNS認定審査に合格した本学修了のCNSは、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNSについては、こちらをご参照ください
<https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します

がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」をサブスペシャリティにしています。これまでに31名の修了生を輩出、県内外でCNSとして活躍しています。実習では、本学を修了したCNSの指導を受けた後、自施設での実習でもCNSの指導が継続して受けられるようにしています。本学CNS 1期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からのe-learningによる講義を推進するとともに、がんプロフェッショナル養成プラン採択事業として、新たにがん治療を支える多領域連携、がんデータ科学推進など専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。2023年度までに、博士前期課程7名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します

◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？

外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？

糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の5本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？

病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します

本学の母性看護CNSコースは、母性看護のスペシャリストとしてハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護、周産期のメンタルヘルスクアを得意とするCNSの育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護CNSを育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護CNSの実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護CNSの実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、メンタルヘルス外来の立ち上げ、ペリネイタルロスの支援、地域保健センターでの活躍など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を発揮しています。



専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、実践的保健学データ人材や臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース、地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

実践的保健学データ人材育成プロジェクト

「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材」の育成

保健学研究科は、群馬県と協働して保健学ビッグデータを用いたICT社会実装人材育成を行うことになりました。群馬県から保健に関するデータの提供と予算の支援を受けて、保健学ビッグデータを活用した大学院教育を行います。奨学金制度を作り、プロジェクト課題に月額5万～20万円の支援を行います。保健学ビッグデータとして国民健康保険被保険者データKDB（15万件）を扱うことができます。

データサイエンスとは、データを用いて科学的に社会に有益な知見を引き出すアプローチのことです。保健の分野では、医療・介護・検診・食事などのビッグデータを解析し、住民の健康増進や予防医学に貢献することが求められていますが、十分な活用ができておりません。

我々の目指すは、「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材の育成」です。大学院教育では、保健学研究科と数理データ科学教育研究センターと共同で行います。実践的な保健学データを用いた日本初の人材育成の試みです。



臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、2001年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

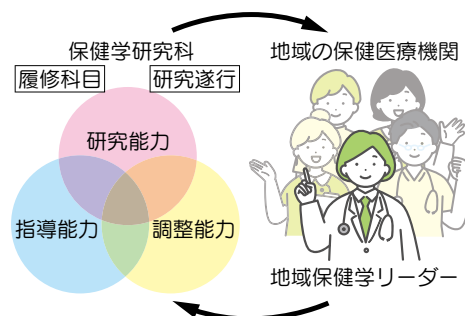
2024年3月までに、20名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。



地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します

これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、2007年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。2010年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。2023年度までに52名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。



パブリックヘルス学環

本学環は、研究科等連係課程実施基本組織として、群馬大学大学院医学系研究科と群馬大学大学院保健学研究科との緊密な連携及び協力のもとで編成する修士課程です。世界が注目する**社会の課題を一緒に解決するプログラム Master of Public Health (MPH)** です。入学試験は保健学研究科と連携し、併願することも可能です。

社会的に注目されている公衆衛生学を学ぶ

公衆衛生学においては、集団を対象とした予防、病気の予測、予知の研究が行われ、現在はまさにヘルスケアの時代になってきています。また新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機に、保健所や保健行政の重要性が再認識され、公衆衛生への投資や専門知識を持った人材の必要性がクローズアップされました。多様化かつ複雑化した公衆衛生上の健康問題の解決には医学的な側面からだけでなく、医療行政を含め、疫学・公衆衛生といった側面からもアプローチが必要です。そのため、国際的な公衆衛生大学院設置基準である **Epidemiology (疫学)**、**Biostatistics (生物統計学)**、**Health Service Administration (医療政策学)**、**Social and Behavioral Sciences (社会科学・行動科学)**、**Environmental Health Sciences (環境保健学)** のにおけるグローバル・スタンダードな公衆衛生学知識を学びます。

知識・技能の修得だけでなく、課題解決力を発揮する高度専門家の育成を目指す

健康の格差を是正するための組織的な活動に寄与する最先端研究や公衆衛生の両輪である実践と研究のいずれの分野でも活躍できる卓越した能力を持った人材育成、また、生物統計学を用いた分析力と実践力を磨き、公衆衛生の専門家として必要となる知識・技能を修得するとともに、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で課題解決力を発揮するためのマネジメント力を有する高度専門家を育成することを目指しています。国際的な公衆衛生大学院設置基準である疫学、生物統計学、医療政策学、社会科学・行動科学、環境保健学の**5領域を教育専門コア科目**として設定し、関連する科目を連携開放科目として設置します。また共通科目に「**データサイエンス**」を配置することで、ヘルスデータサイエンスに関する知識と技術の修得を可能にし、合わせて「**レギュラトリーサイエンス**」を必須科目とすることで、身の回りの現象についてその成因や機構、量的と質的な実態及び有効性や有害性の影響を的確に測る手法を学びます。



パブリックヘルス学環では是非学んでいただきたい方々

- ✓ 各地域の健康に係る諸課題の解決のために公衆衛生学の知識を獲得したい人（保健所等自治体職員、病院職員、医療保険関係者、産業保健関係者等）
- ✓ 疫学・公衆衛生学の教育・研究職を志向する人
- ✓ 既存の枠組みにとらわれず、自身が持つ問題意識とデータサイエンスの手法を融合させて健康・医療に関する課題を解決したいという強い意欲を持った人
- ✓ 留学生も歓迎します！

博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

- ◎共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。
- ◎専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。
- ◎特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の解読力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる人
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる人
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を有している人
- 2 グローバルな視点で研究を推進し、その成果を広く発信するために必要なコミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉等の分野で研究者、教育者又は高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究を実践できる能力を育成する教育
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育を実践できる能力を育成する教育
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育・研究が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限を在籍し、かつ、博士後期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士後期課程論文（博士論文）を作成し、今後も意欲的に研究活動を進めることができる者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

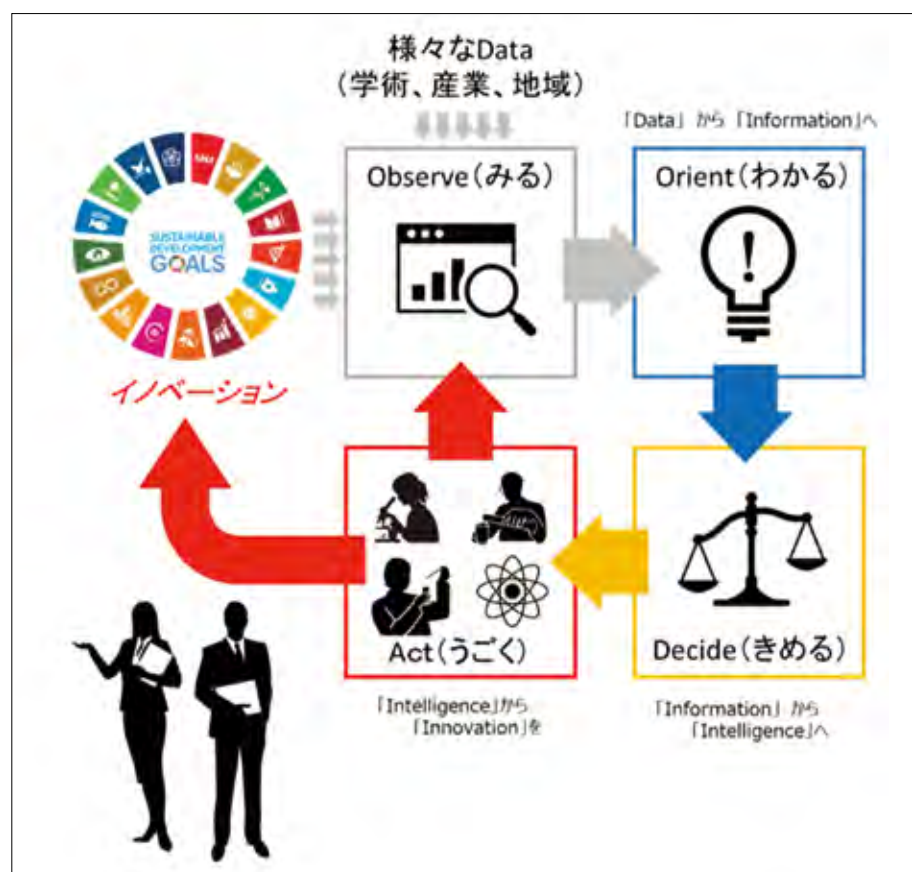
博士後期課程学生に対する助成事業

「次世代Gunma創発的博士人財インダクションプログラム（next-GIP）」について

我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し、博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることを目的に、科学技術振興機構（JST）が次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）を実施しています。群馬大学のnext-GIPはこのSPRINGに採択され、令和6年度より運用を開始し、Next-GIPに選抜された学生に対して奨励費（生活費相当）および研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツの提供を始めとする多様な支援を行っています。具体的には、奨励費として毎月16.5万円、研究費として年間60万円が支給され、さらに、国内外学会参加のための経済的な支援を受けられます。募集人員は群馬大学全体で令和6～8年度の間は毎年度15名前後が予定されています。Next-GIPは博士後期課程学生が安心して研究に打ち込める環境を提供するプログラムです。詳しくは、next-GIPのホームページ<<https://sites.google.com/gunma-u.ac.jp/gu-next-gip>>をご覧ください。スマートフォンをご利用の方は下のQRコードを読み取りアクセスしてください。



next -GIP
ホームページ



【Next -GIPの育成像】

【支援内容】

- ① 研究奨励費(16.5万円/月)
 - ② 研究費(60万円/年)
 - ③ 海外での学会発表への支援
 - ④ トランスファブルスキル等の教育コンテンツ
 - ⑤ 学生間交流の機会の提供（リトリートなど）
- など多数

博士後期課程各領域の特色

看護学領域

(基礎看護学分野／応用看護学分野／地域・国際看護学分野)

看護学領域の特色は、看護学のKey Conceptsである「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことである。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩がある。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々のQOLを高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探求し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することである。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用いる。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成する。

生体情報検査科学領域

(基礎生体情報検査科学分野／応用生体情報検査科学分野／地域・国際生体情報検査科学分野)

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究する。続いて、生体に生じる様々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行う。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を实践できる専門職の養成を目指す。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成する。

リハビリテーション学分野

(基礎リハビリテーション学分野／応用リハビリテーション学分野／地域・国際リハビリテーション学分野)

リハビリテーション学で対象とする障害についてICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげている。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持つ。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とする。

過去3年間の修了生就職先リスト

2022年

■保健学研究科前期課程

教育
高崎健康福祉大学
群馬医療福祉大学
太田医療技術専門学校
医療・福祉 ※病院名は通称で表記
群馬県立がんセンター
老年病研究所附属病院
美原記念病院
上牧温泉病院
(医) 石井会渋川伊香保分院
沼田脳神経外科循環器科病院
せせらぎ病院
群馬大学医学部附属病院
榛名荘病院
岩手医科大学附属病院
東北大学病院
済生会宇都宮病院
埼玉県立病院機構
ウィメンズクリニックふじみ野
新松戸中央総合病院
湘南鎌倉総合病院
(医) 善仁会総合健診センターヘルチェック
企業・法人等
(株)ビー・エム・エル
GEヘルスケア・ジャパン(株)
スタッフサービス・えんじにありんぐ
ミナリスメディカル(株)
キヤノンメディカルシステムズ(株)
東洋紡(株)

■保健学研究科後期課程

教育
群馬パース大学
群馬県立県民健康科学大学
群馬医療福祉大学
新潟県立看護大学
名古屋市立大学
埼玉医科大学
日本医科大学
医療・福祉 ※病院名は通称で表記
老年病研究所附属病院
沼田脳神経外科循環器科病院
群馬大学医学部附属病院

2021年

■保健学研究科前期課程

教育
群馬医療福祉大学
医療・福祉 ※病院名は通称で表記
伊勢崎市民病院
前橋赤十字病院
老年病研究所附属病院
公立藤岡総合病院

認定NPO法人じゃんけんぼん
群馬大学医学部附属病院
聖マリアンナ医科大学病院
順天堂大学医学部附属順天堂医院
(株)LITALICO
小諸高原病院
江戸川病院
公務
群馬県渋川市
企業・法人等
iSKI Japan(株)
高信化学(株)
シミック(株)
栄研化学(株)
(株)LSIメディエンス
ユニ・チャーム(株)
(株)BML
(株)ピーシーエルジャパン

■保健学研究科後期課程

教育
群馬パース大学
高崎健康福祉大学
群馬大学
帝京大学医学部
医療・福祉 ※病院名は通称で表記
日高病院 (医) 大誠会

2020年

■保健学研究科前期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記
公立藤岡総合病院
前橋赤十字病院
足利赤十字病院
自治医科大学附属病院
獨協医科大学病院
みたき総合病院
公務
群馬県
企業・法人等
(株)食環境衛生研究所
大誠会
(株)MICメディカル
GEヘルスケア・ジャパン(株)
積水メディカル(株)

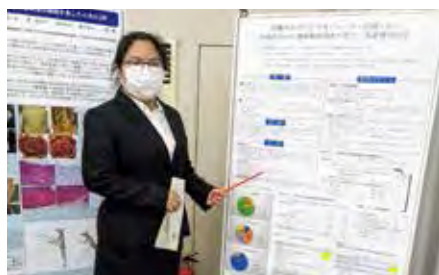
■保健学研究科後期課程

教育
群馬大学
高崎健康福祉大学
企業・法人等
UHA味覚糖(株)

詳しくは、群馬大学のこちらのページをご覧ください。
<https://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2079>



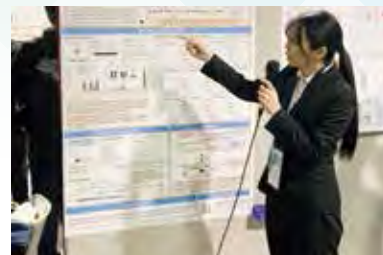
様々な保健学研究科の様子



看護学領域（前期・後期）



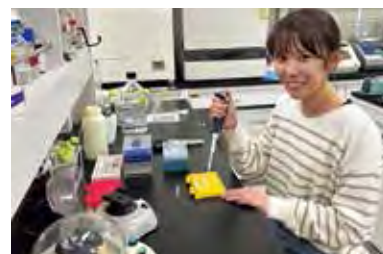
生体情報検査科学領域（前期・後期）



リハビリテーション学理学療法学領域（前期・後期）



リハビリテーション学作業療法学領域（前期・後期）



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

 食健康科学教育研究センター兼任

 パブリックヘルス学環兼任

「*」 2026年3月31日退職予定

「**」 2027年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下にgunma-u.ac.jp

看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

●小澤 厚志・教授   ozawaa@

- ① 遺伝性腫瘍症、代謝疾患の発症機構に関する分子生物学的研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

●上星 浩子・教授  hiroko-jo@

- ① 看護介入における効果の検証
- ② 看護師の臨床判断に関する研究
- ③ 看護教育に関する研究
- ④ 慢性疾患をもつ患者の経験と思いに関する研究

○恩幣 宏美・准教授  sanaki@

- ① 多様性のある看護職のキャリア発達に関する研究
- ② 勤務者のプレゼンティズムに関する研究
- ③ 病棟看護師のコンピテンシーに関する研究

・中村 美香・講師

看護師の医療安全や自律性に関する研究

・柳 奈津子・講師

安楽・安寧に関するケアの効果の検証

・櫻井 一江・助教

- ① 看護職の職業的アイデンティティに関する研究
- ② 人工透析医療に関する人類学的研究

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●新井 陽子・教授  yk-arai@

- ① 周産期メンタルヘルスに関する研究
- ② 家族看護に関する研究
- ③ ハイリスク妊産婦支援に関する研究

●大山 良雄・教授 ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネージメントに関する研究

●岡 美智代・教授 michiyooka@

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究



岡研究室
<https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

●金泉 志保美・教授 kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ子どもの在宅ケアに関する研究
- ② 子どもの退院支援に関する研究
- ③ 入院中の子どもの日常生活や発達を支援するための研究

●近藤 浩子・教授** hirokok@

- ① コミュニケーション技術に関する研究
- ② 精神看護の実践に関する研究
- ③ メンタルヘルスおよびセルフコンパッションに関する研究
- ④ 精神障害をもつ人のリカバリーに関する研究

●近藤 由香・教授 yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアの開発に関する研究

●篠崎 博光・教授 h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

○國清 恭子・准教授 kunikiyo@

- ① 出産体験・出産体験の振り返りの支援に関する研究
- ② 周産期のメンタルヘルスに関する研究

○牧野 孝俊・准教授 tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究

○高橋 さつき・准教授 satsukit@

- ① ICTを活用した患者教育の開発・評価
- ② 慢性腎臓病患者への教育的支援に関する研究



腎臓ケア eラーニング講座
<http://plaza.umin.ac.jp/~jin>

○京田 亜由美・准教授 akyota@

終末期、治療期のがん患者・家族への緩和ケアに関する研究等

・齋藤 明香・助教

- ① セミオープンシステムに関する研究
- ② 高年妊産婦に関する研究

・瀬沼 麻衣子・助教

がん患者のQOLや治療選択に関する研究等

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・橋本 沙織・助教

がんサバイバーのピア・サポートに関する研究

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教

- ① 慢性疾患の看護に関する研究
- ② ICTを活用した教育システムに関する研究等

・八木原 ひなた・助教

看護師のメンタルヘルスに関する研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●伊東 美緒・教授 mioito@

- ① 認知症症状を軽減するためのケア方法に関する研究
- ② 認知症症状を軽減するための生活環境に関する研究
- ③ 認知症症状を軽減するための研修方法の開発



老年看護学講座
<http://bpsd.jp/>

●牛久保 美津子・教授* ushi2@

- ① アドバンスケアプランニングに関する研究
- ② 退院支援・地域連携に関する研究
- ③ 在宅療養支援に関する研究
- ④ 非がん療養者の緩和ケアに関する研究

●内田 陽子・教授 yuchida@

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発
(認知症ケア、EOLC、包括的BPSDケアシステム® 等)
- ② 地域住民に対するEOLCの意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ ケアマネジメントに関する研究



老年看護学講座
<http://bpsd.jp/>

●大庭 志野・教授 oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●佐藤 由美・教授 satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

○石川 麻衣・准教授   mishikaw@

- ① 行政保健師の機能・役割および活動の特質に関する研究
- ② 健康づくりの展開方法に関する研究
- ③ 地域における健康危機管理に関する研究

○辻村 弘美・准教授  tujimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

・柏瀬 淳・助教

- ① 在宅療養をする医療的ケア児やその家族を支える看護に関する研究
- ② 内服薬を必要とする小児の服薬管理に関する研究等

・梨木 恵実子・助教

訪問看護、呼吸器疾患やエンドオブライフケアの在宅高齢者に関する研究

・堀田 かおり・助教

地域における高齢者の健康づくりへの支援に関する研究

・松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等

生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●大西 浩史・教授   ohnishih@

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 脳老化メカニズムについての研究



大西研究室
<https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

●多胡 憲治・教授  ktago@

- ① 低分子量Gタンパク質Rasが制御する発がんシグナルに関する研究
- ② がん、心疾患や糖尿病を制御するGタンパク質シグナルに関する研究
- ③ がん抑制遺伝子産物が制御する細胞内シグナル伝達系に関する研究

●柴田 孝之・准教授   tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能的蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齊尾 征直・教授   saio@

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



病理細胞診研究室
<https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

●齋藤 貴之・教授   tsaitoh@

- ① 血液疾患・腫瘍の分子生物学的研究
- ② DNA修復の研究
- ③ 群馬県と協働した保健学データの解析



血液研究室

<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=16646>

●中村 和裕・教授  knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

●松井 弘樹・准教授   hmatsui@

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



横山・松井研究室

<http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

●西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

●後藤 七海・助教

急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

●小林 さやか・助教

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

●土岐 明子・助教

糖尿病に関連する凝集体タンパクや肥満に関連する分子の研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

●徳舄 富由樹・教授  ftokumasu@

- ① マラリア、トリパノソーマ原虫内における脂質代謝の研究
- ② 脂質膜の生物物理学
- ③ 高解像度ライブイメージングから解明する細胞内分子メカニズム

○豊村 暁・准教授  toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究

●鬼塚 陽子・助教

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究

リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●久田 剛志・教授   hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対するω3 系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●山路 雄彦・准教授** ✉ tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究

・朝倉 智之・助教

三次元動作解析等、基礎的研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●小林 匠・教授 ✉ kobataku@

- ① 運動器およびスポーツ疾患の病態の解明
- ② 運動器およびスポーツ疾患に対する理学療法評価・介入の開発
- ③ 運動器およびスポーツ疾患の予防法の考案

●田鹿 毅・教授 ✉ tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査（発症危険因子の検討）研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究

・佐藤 江奈・助教

変形性股関節症に関する研究

・中澤 理恵・助教

成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●山上 徹也・教授 ✉ yamagami@

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



山上研究室

<https://brainreha.jimdofree.com/>

・加藤 大悟・助教

呼吸器疾患のリハビリテーションや評価方法に関する研究
スポーツ障害の予防に関する研究

リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●李 範爽・教授 ✉ leebumsuk@

- ① 加速度計や圧センサー、Actiwatchなどを用いた上肢機能の運動学的解析
- ② 中枢神経障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ③ 視空間認知機能障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ④ Actiwatchなどを用いた身体活動量や生活リズム、睡眠の定量的評価

●三井 真一・教授 smitsui@

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



三井研究室
<https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/>

●藤田 行雄・教授 yfujita@

- ① 神経変性疾患の神経病理学的研究
- ② 神経筋疾患の歩行解析

・田中 浩二・准教授

高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

・野口 直人・助教

頸椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●平尾 一樹・准教授 kazuki.hirao@

- ① 閾値下うつ病に対する介入方法の開発に関する研究
- ② 精神疾患を有する人々に対する作業療法の効果に関する研究
- ③ 精神病様体験に関連する要因の同定に関する研究

・下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授 senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

・川島 智幸・准教授

World Englishes（世界の様々な英語）の授業への応用、教材開発、教育的効果など

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究

・秋山 稜登・助教

- ① 定量的指標を用いた上肢機能と視覚機能の分析
- ② 運動・感覚・認知プロセスと日常生活活動との関連性の調査

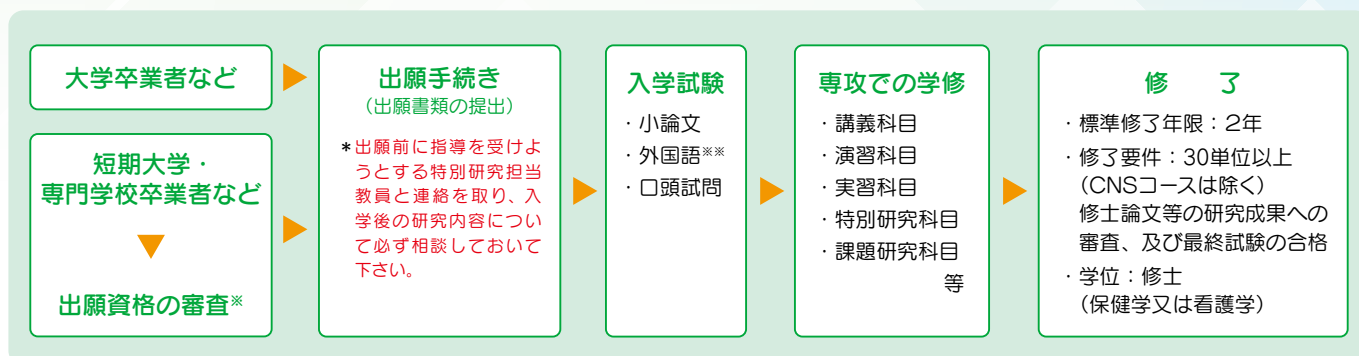
 @Gundai_OT
(旧 Twitter)



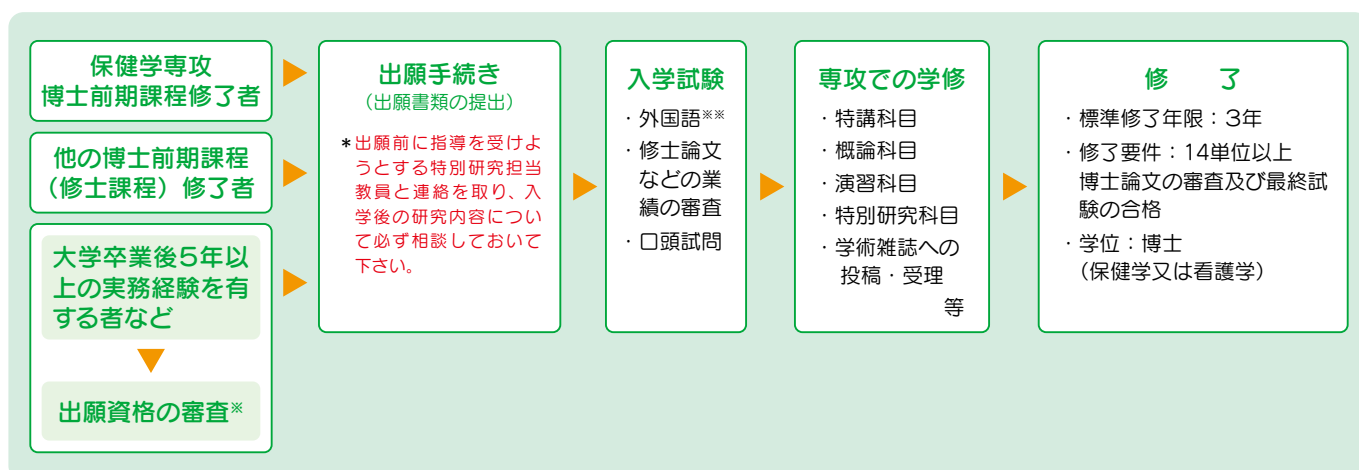
 gundai_ot



■保健学専攻博士前期課程



■保健学専攻博士後期課程



※ 出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※ 出願時にETS発行のTOEFL-PBT (Paper Based Test)、TOEFL-iBT (internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)、又はIELTS (Academic Module) のいずれか1つの公式スコア又は公式認定証の提出をもって、外国語(英語)の筆記試験に代えることができます。TOEFL-ITP Institutional Testing Program、TOEFL ITP Plus for China のスコアもTOEFL-PBT のスコアに準じて評価対象とします。詳しくは、「学生募集要項」をご確認下さい。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

2. 奨学金紹介

本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。

3. ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）

大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではTA、博士後期課程ではRAとして採用します。

社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果2023年度博士前期課程では全学生の49%、博士後期課程では80%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、2007年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

1. 昼夜開講制、土日の集中講義

開講時間は、昼間：8:50～17:50、夜間：18:00～21:10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。

2. 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年限数で除した額となります。

3. オンラインによる遠隔講義

終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させてつあります。

海外派遣支援

海外での学会発表や海外協定校への派遣プログラムなど、大学院生の海外派遣についても支援制度があります。

1. JASSO 協定派遣奨学金

2. 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含みます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRCなど）などに多く就職しています。



2021～2023年度
進路状況（修士）



2021～2023年度
進路状況（博士）

入試日程・募集人員

2025年度入試日程

2024年

～7月1日（月）	・ 出願資格審査締切（該当者） （審査結果は2024年7月24日（水）までに通知します） ・ 外国人留学生用試験申込締切
7月15日（月） ～ 8月1日（木）午後3時	検定料*取扱（納付）期間 *検定料 ¥30,000
7月26日（金） ～ 8月1日（木）	出願受付期間（必着）
9月8日（日）	試験実施日
9月27日（金）	合格者発表

2026年度入試についての新情報

10月入学プログラム	2025年から10月入学を開始を予定
------------	--------------------

※必ず学生募集要項をご確認ください。

募集人員

博士前期課程

専 攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット 応用保健学ユニット 地域・国際保健学ユニット	50名

〈入学者選抜の基本方針〉

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

博士後期課程

専 攻	領 域	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	10名

〈入学者選抜の基本方針〉

学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行います。

アクセス・問合せ



問合せ inquiry

群馬大学昭和地区事務部
学務課入学試験係
Admissions Section,
Educational Affairs Office

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22
3-39-22, Showa-machi, Maebashi, Gunma 371-8511
電話 Phone : 027-220-7797
E-mail : kk-mgakumu5@ml.gunma-u.ac.jp

特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、X (旧 Twitter) による情報発信も行っています。

X @HealthGu



昭和地区 ■JR両毛線前橋駅下車、北方へ4km、バスで約15分

Access to Showa Campus : Get off at the Maebashi station from JR Ryomo Line and take a bus (about 15min)

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
前橋駅北口 JR両毛線 2番乗り場	・ 群大病院行 ・ 群大病院経由群馬大学荒牧行 (南橋団地経由含む)	群大病院	約15分	関越交通バス
	・ 渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 渋川市内循環渋川駅行 (群馬大学荒牧経由) ・ 小児医療センター行 (群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約13分 徒歩6分	関越交通バス
	・ 前橋駅行 (渋川市内循環、群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約30分 徒歩6分	関越交通バス

※JR群馬総社駅及び新前橋駅からは、公共交通機関がありませんので注意してください。公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時間までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学大学院保健学研究科
保健学専攻